



大人が絵本を 第76回 絵本の日アワード in



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー BibliOキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

「正義」を考えたことがありますか？

コロナ禍のなか、世界中に発信されたアメリカ大統領選最初のテレビ討論会は、今を懸命に生きる人々に失望を与えるものでした。現職大統領VS前副大統領という地位のある人物が、威厳も名声もまったく感じられない罵詈雑言の応酬劇を見せ、それは超大国米国の品位を損なう光景でした。相手を貶めるような言葉で攻撃する姿は、子どもたちに見てほしくはありません。トランプ前大統領とバイデン大統領に正義や人権尊重の心はあるのか、問いたくなります。

わが国日本には「正義」を追究しながら創作活動が続けた偉大な作家がいます。その作品は、作者が没した後も乳幼児期にいる子どもたちと、そんな赤ちゃんをもつママ・パパに愛され続けているスーパーヒーロー「アンパンマン」です。そう、正義を追究した絵本作家とは、やなせたかし先生です。

終戦まで兵隊として戦争を体験したやなせ氏は、敗戦して本当の正義とは何なんだろうと考えたのです。それは正義の軍隊だと信じていた日本軍が終戦の途端、中国を侵略した悪魔の軍隊に一転したことが理由です。「正義のための戦いなんてどこにもない」と知り、「正義はある日突然逆転する」、「逆転しない正義は献身と愛だ」と真の正義に気付くのです¹⁾。

米国大統領選候補者の2人は、真の正義にまだたどり着いていないのでしょうか。アメリカ大統領とは、スーパーヒーローであってほしいものです。

大人と子どもを区別しない

やなせ氏が真の正義に行き着いたこと、それがア

ンパンマン誕生の原点になるのです。氏の代名詞はアンパンマンですが、最初に描いた創作絵本は、小学校中学年以上を対象とした『飛ぶワニ』(岩崎書店)です。それまで大人向けのジャンルで創作をしていたやなせ氏が、子ども向けの作品に取り組み始めたきっかけとなる絵本になります。

『飛ぶワニ』
やなせたかし 作・絵
(岩崎書店)



とりわけ、「童話・メルヘン」に対する強い思いがあったやなせ氏は、子どものために作品を描くのですが、その創作方針は「大人と子どもを区別しない」という思いを貫いたのです。短編小説とイラストを組み合わせた作品を自ら「やなせメルヘン」と名付け、1970年代前後に短編集を次々と出版しました²⁾。

そして、いよいよアンパンマンへとつながる二作目の絵本『やさしいライオン』が、フレーベル館より「絵本」の形で刊行されるのです。その初版が発行されてから45周年となった2020年、ロングセラー『やさしいライオン』はまったく新しい賞に輝きました。

『やさしいライオン』から生まれた物語

コロナ問題が出てから、施設で暮らす母に会いに行くことができないでいる。昨年、もっと頻繁に会いに行けばよかった。いや、それより施設ではなく、もっと他の選択があったのではないかと、最近考えるようになった。離れて暮らす母の事を思いながら、一冊の絵本が私の頭をよぎった。やなせたかしの「やさしいライオン」だ。

手にするときは！

FUKUOKA 2020 さっちゃん賞

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

年老いたやさしい母親と母親思いのやさしいライオンのお話だ。人間も動物も、やがて親から離れ、一人立ちを迎える。寂しくて、苦しい夜には、遠い日々を思い出す。幼い頃、母親の愛情に温かく包まれていた日々を。

会いたい、会えない。あんなことしてあげたいな。あの話をきいてもらいたい。そんな思いがぐるぐると巡り、胸にグサッと突き刺さった。いつも笑顔を絶やさない働き者だった母が大好きで、母さえいれば私の心はいつも安心で満たされていた。そんな自分は今、東京で暮らし、母を施設で暮らさせている。自分が不道德な娘に思えてならない。

いずれ母は、先に旅立つだろう。そのとき、私はその悲しみをどうやって乗り越えて行くのか。愛する人がこの世から去っても、残された者は生きていなくてはならない。

『やさしいライオン』
やなせたかし 作・絵
(フレーベル館)



それなら私ができる事は、一つでも多く母との思い出を増やしていくことだ。特別なことでなくて構わない。一緒に食事をしたり、散歩をしたり、笑ったり。そうした思い出は、決して色褪せることなく私の中で大切な宝物として生きるはずだから。

日々の慌ただしい生活の中で、どこかへ置き忘れていた母への愛情をこの絵本が思い出させてくれた。このライオンのように、母をしっかりと抱きしめ、やさしく包んであげよう。母がいつもそうしてくれたように。



覚えていますか「大人こそ絵本」

『やさしいライオン』から生まれたこのエピソードが授賞されましたのは、「絵本の日アワード in FUKUOKA2020 エピソード部門 さっちゃん賞」です。



絵本の日アワード in FUKUOKA 2020
さっちゃん賞受賞者 和田 静香さま(東京都)

「さっちゃん」は、ビブリオキッズの水田祥代館長が幼い頃から今日に至るまで親しまれている愛称です。「さっちゃん賞」とは、館長特別賞に当たるスペシャル・アワードなのです。小児外科医である「さっちゃん先生」の特別な願いがこめられて選考された作品は、それだけで格別と判断されるのです。

『やさしいライオン』は、離れ離れになっても強い絆をもつ親子のお話です。突然襲ってきた新型コロナウイルスの感染者が瞬く間に拡大して人と人とが引き裂かれたとき、一番にお母さまを思い、逢えない辛い感情に苛まれた和田さまを救ってくれたのは、記憶の中にある絵本と幼少期の思い出でした。一冊の絵本との対話によって、できないことを嘆くより、これからの人生設計をされた前向きな行動に、絵本のやさしく強い力を感じます。

絵本が大人の苦悩を解き、将来に向かって生きる力を与えているのです。「大人が絵本を手にするとき」、人の感情を逆転させるほどの威力が湧き出るとのことです。「大人こそ絵本」を説明したこ



のエピソードは、社会に対して、また大人に対して、大きなエールを送るものです。

『やさしいライオン』が絵本の形になったのは、フレール館の月刊絵本「キンダーおはなし絵本」1969年5月号です。その年には、「トッパンのおはなしえほん」として市販化されました。1975年に、現在のピンクの装丁で刊行されてから45年後の不遇の社会にあって、『やさしいライオン』から生まれた希望と慈愛に満ち溢れたエピソードは、コロナ禍を生きる人々の明日への活力となり得るでしょう。

ここにも、時代を超えて読み継がれる絵本

生前のやなせ氏が、「『やさしいライオン』がなければ、アンパンマンは生まれなかったと思う」と語るほど、作者にとって特段の思い入れのある作品なのです²⁾。



『あんぱんまん』(キンダーおはなしえほん傑作選) やなせたかし 作・絵 (フレール館) 1979年5月 第1刷発行 2009年 第61刷発行 ©1976



そんな『やさしいライオン』が誌面上に掲載されたのはもっと古く、1962年、漫画同人誌『えへEHE』No.7において世に登場しました。その後の1967年には、ミュージカル仕立てのラジオドラマとして放送され、歌を担当したボニージャックスの計らいで、フレール館から絵本として出版されることになったのです³⁾。昭和37年に登場したこのお話は、その後移り行く昭和末期から、平成、令和と時代をまたいで、親から子へ、その子が親となって自分の子どもへと読み継がれ、愛や優しさ、絆のメッセージを語り継いでいるのです。

眼をそむけないで！“人生の悲痛”から

ラジオドラマ『やさしいライオン』が誕生して数か月後、やなせ氏は、手塚治虫氏からの依頼を受け

て虫プロダクションで長編アニメ映画『千夜一夜物語』の美術監督として、美術ボードとキャラクターデザインを担当することになりました。この映画が好評を博したため、お礼として手塚治虫氏のポケットマネーから制作費が出され、手塚氏プロデュースによって『やさしいライオン』が今度はアニメ映画となったのです²⁾。1970年、昭和45年のことです。

ラジオドラマや舞台、映画など表現の手法を様々にもつ『やさしいライオン』の題材は、2つの報道記事がやなせ氏の目に留まったことにはじまりました。ひとつは、ドイツの動物園で犬がライオンを育てた記事、そしてもうひとつは、サーカスの猛獣が逃げ出して射殺されてしまったという記事です。それは自身の生き立ちに重なるもので、5歳で父を失い、7歳で母と別れ、叔父夫婦に引き取られた経験が、実母への思慕や、自分と養父母の姿を重ね合わせ、物語が生まれました。自らの戦争体験と、弟を戦争で亡くした悲しみを物語に込めて、「熱涙」を流しながら描いたと語っています⁴⁾。

やなせ氏が『やさしいライオン』について言及した「子どもの読み物として残酷すぎるのではないかといわれる方もいるかと思いますが、人生の悲痛に眼をそむけるべきではないと考えています。…私は愛と勇気について語りたかったのです。」⁴⁾とは、コロナ禍の今に通ずる力強い言葉です。きっと、この社会を遠くから見て、「子どもたちよ！ 大人たちよ！ 今こそ絵本です。『やさしいライオン』、『アンパンマン』を読んでごらん。」とつぶやいていることでしょう。

やなせたかし先生から大人へのメッセージ

愛と勇気について語る『やさしいライオン』には、もうひとつテーマがあります。それは、見た目で見断してしまうことの残酷さです。犬に育てられたライオンのブルブルは、自分が犬と認識していて、しかも人間にとってライオンが脅威の存在だというこ

とを自覚しないまま大きくなりました。母に会いたい一心で街を駆けて行くライオンの姿を見た人間は、その見た目だけで判断し、悲しい結末が訪れるのです。

ここに、物事を一方的な視点でしか考えられない人には伝わらないことがあるというメッセージが込められているのです。実際、街中にライオンが現れたら恐怖におののき、人間のいのちを守るためにライオンを捕獲するでしょう。例えとしても、ライオンのイメージとはそういうものです。

しかし、「見た目で判断してはならない」という訓えは十分に理解できます。やなせたかし先生が生涯を通して「真の正義」を追究したように、あらゆる物事と人物、それから社会を、定点ではなく多角的に見つめ、真実が何であるのかを追究しながら生きましょと、大人に向けてそんな教訓が込められていると思うのです。



こんなご時世には、子守唄を

『やさしいライオン』の巻末には、母犬が毎晩歌った「ブルブルの子守唄」が楽譜付きで紹介されています。やなせたかし作詞のこの子守唄を聴くと、絵本と同様に愛、優しさ、絆のメッセージが伝わってきます。

行動制限が求められる新しい生活様式は、大人も息苦しさを覚えることがあるでしょう。どうぞ、皆さまの身近にいる大切な子どもたちにこの子守唄を歌ってあげてください。それから、今は会うことのできない遠くにいる大切な方を思いながら、この子守唄をゆっくりと歌ってください。

哀愁ただよう「ブルブルの子守唄」は、読む者・歌う者自身を包み込んでくれるでしょう。



絵本の日アワード in FUKUOKA 2020 授賞式

さて、「絵本の日アワード in FUKUOKA 2020 授

賞式」は、映像で視聴することができます。「絵本と図鑑の親子ライブラリー」ビブリオキッズのホームページ「NEWS」より、「絵本の日アワード in FUKUOKA 2020 エピソード部門授賞式」You Tube にリンクしています。

長引く自粛生活では、おうち時間の新しい楽しみ方を見出していると思います。そんな皆様へ、医療法人元気が湧くより、心に響くスペシャルな芸術文化をお届け致します。誰もが、「絵本の力」というものを感じるはずで。そして、きっと絵本を手にとりたくなるでしょう。絵本との「思い出のエピソード」は、人の心を動かし、感動を生み、共有した人の人生を豊かにするのです。ひいては、社会が豊かになるのです。

対人関係に慎重にならざるを得ないこの時期だからこそ、絵本が持つ「人と人を結びつける力」を使って、患者様ご家族の親子関係や地域の人たちの関係を支援したいものです。コロナ禍にあっても、豊かな人生がみつかりますように。



「絵本の日アワード in FUKUOKA 2020
エピソード部門授賞式」ビブリオHPより
<http://bibliokids.jp> “Biblio NEWS”

文献

- 1) やなせたかし：未来の大人へ語る わたしが正義について語るなら、ポプラ社、東京、pp.19-22, 2009.
- 2) やなせたかし[著]：やなせたかし大全 TAKASHI YANASE ON STAGE, フレーベル館、東京、pp.58-75, 2013.
- 3) 仙波美由記：やなせたかしと「ライオン」、やなせたかし記念館NEWS vol.75, p.11, 2017.
- 4) 池上理恵：我が社の売れ筋 ヒットのひみつ18『やさしいライオン』フレーベル館、こどもの本 通巻570号、p.47, 2020.

